

嗅覚機能検査キット（ニンテスト）の認知症早期スクリーニングへの有用性

浦上 克哉

鳥取大学医学部 認知症予防学講座

アルツハイマー型認知症では記憶障害が出現する前に嗅覚障害が出現する。病理学的にも嗅神経に早期からアミロイド β 蛋白が蓄積することが報告されている。早期に、この嗅覚障害を発見し病気の進展を防ぐことが期待される。そこで、短時間で負担なく施行でき、有効性が期待できる嗅覚機能検査キット（ニンテスト）を開発した。嗅覚機能検査は認知機能検査より被験者の抵抗感が少なくスクリーニング検査として優れていると思われる。厚生労働省からの委託研究「認知症の早期発見・早期対応モデルの確立」で鳥取県琴浦町と島根県隠岐の島町で嗅覚機能と認知機能を検討した。その結果、嗅覚機能低下は認知機能低下がみられないレベルから出現しており、より早期の発見に優れていることを確認した。脳ドックでの嗅覚機能スクリーニングキットの活用が今後の認知症早期発見の切り札になる可能性がある。

略歴 浦上 克哉（うらかみ かつや）

経歴

1988年3月 鳥取大学医学部大学院博士課程修了
1989年4月 鳥取大学医学部脳神経内科・助手
1996年2月 鳥取大学医学部脳神経内科・講師
2001年4月 鳥取大学医学部保健学科生体制御学講座・教授（2022年3月まで）
2016年4月 北翔大学・客員教授（併任）
2022年4月 鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座（寄附講座）・教授

所属学会・認定・資格

日本認知症予防学会（前代表理事、専門医）、日本化粧品医療学会（理事）、日本神経学会（専門医、指導医）日本老年医学会（代議員、指導医、地方会監事）、日本認知症学会（専門医）、日本脳ドック学会（評議員）、日本老年精神医学会（評議員）

